



報道関係者 各位

平成25年 9月11日(水)
大分県福祉保健部健康対策課
電話：097-506-2669(直)
担当：岡崎

咽頭結膜熱(プール熱)にご注意を！

1 概要

感染症発生動向調査事業に基づく、定点医療機関からの患者数の報告で、県内の定点当たりの咽頭結膜熱の患者数が、第36週(9/2～9/8)に警報発令の基準となる3.00となりました。

県内で咽頭結膜熱の流行が発生していると考えられますので、手洗いの励行など注意が必要です。

2 発生状況

別添、「大分県内の咽頭結膜熱(プール熱)の発生状況」のとおり。

3 感染症発生動向調査について

咽頭結膜熱は、県内36カ所の定点医療機関から毎週報告があります。警報の基準は以下のとおりで、国立感染症研究所が設定した基準値です。

	警 報	
	開始基準値	終息基準値
定点当たりの患者数	3.00	1.00

4 予防方法等

別添、「咽頭結膜熱(プール熱)に注意しましょう！」のとおり。

大分県内の咽頭結膜熱(プール熱)の発生状況

週別 咽頭結膜熱患者数(大分県、全国)

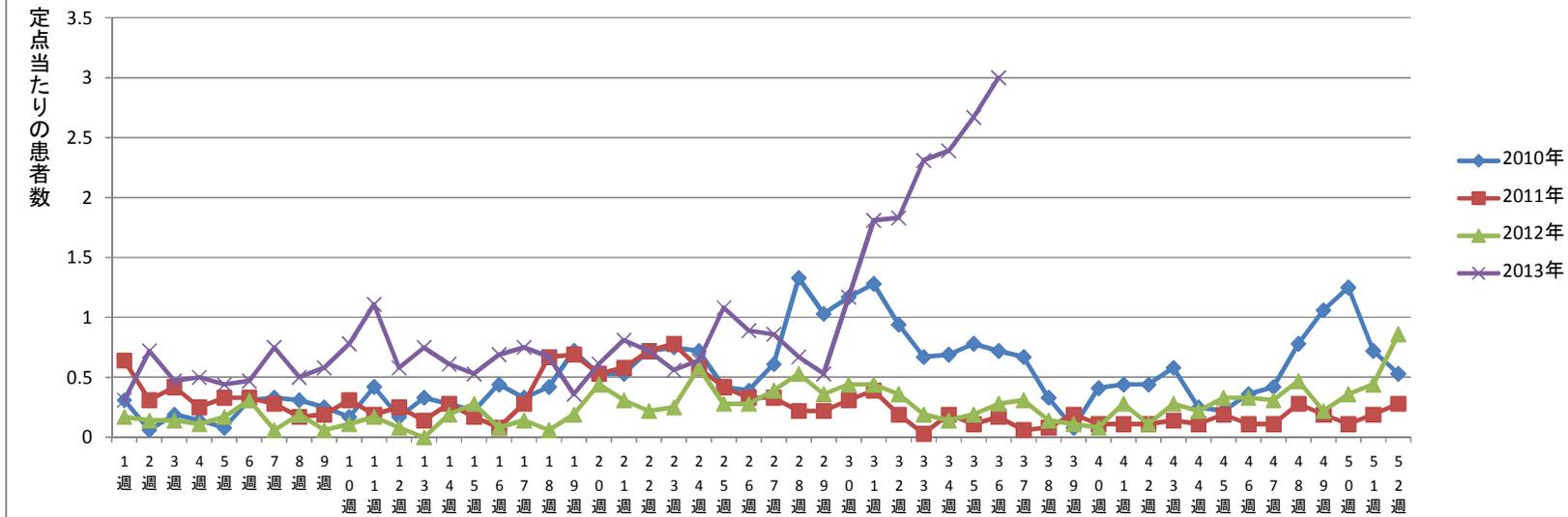
			大分県(定点36力所)		全国	
			患者数	定点当たり	患者数	定点当たり
2013年	25週	6/17 ~ 6/23	39	1.08	2,244	0.71
	26週	6/24 ~ 6/30	32	0.89	2,042	0.65
	27週	7/1 ~ 7/7	31	0.86	2,078	0.66
	28週	7/8 ~ 7/14	24	0.67	2,036	0.65
	29週	7/15 ~ 7/21	19	0.53	1,720	0.55
	30週	7/22 ~ 7/28	42	1.17	1,811	0.58
	31週	7/29 ~ 8/4	65	1.81	1,815	0.58
	32週	8/5 ~ 8/11	66	1.83	1,635	0.54
	33週	8/12 ~ 8/18	83	2.31	1,298	0.44
	34週	8/19 ~ 8/25	86	2.39	1,451	0.47
	35週	8/26 ~ 9/1	96	2.67	1,546	0.49
	36週	9/2 ~ 9/8	108	3.00		

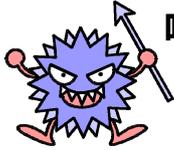
大分県感染症発生動向調査事業

保健所別の状況

	35週	報告数	定点当たり
総数		108	3.00
東部		5	0.63
中部		5	2.50
南部		33	11.00
豊肥		0	0.00
西部		9	2.25
北部		29	4.83
大分市		27	2.70

大分県内の過去の咽頭結膜熱の発生状況





咽頭結膜熱(プール熱)に注意しましょう！



【咽頭結膜熱とは】

咽頭結膜熱は、発熱、咽頭炎、結膜炎を主とする小児の急性ウイルス性感染症でアデノウイルスと呼ばれるウイルスがその原因となります。

通常夏期に地域全体で流行し、6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月に流行のピークとなります。

プールでの感染も見られることからプール熱とも呼ばれることもあります。

【症状】

感染から5～7日の潜伏期間の後に、発熱で発症し、頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともに、咽頭炎による咽頭痛、結膜炎にともなう結膜充血、眼痛などの症状が3～5日間程度持続します。

咽頭結膜熱は、基本的には数日間のうちに治癒する予後良好の疾患ですが、免疫機能低下等の基礎疾患のある方、乳幼児などでは呼吸障害が進行したり、細菌の2次感染も併発することがあるので注意が必要です。

【感染経路】

咽頭結膜熱は、飛沫感染や接触感染であり、原因となるウイルスが、結膜あるいは上気道からの侵入し感染します。

プールの感染では、タオルを共有することが感染のリスクを高めるという報告があります。

【治療】

ウイルスを原因とする咽頭結膜熱への特別な治療法はなく、つらい症状を軽減するための処置(対症療法)が行われます。

【予防のポイント】

- ①感染者との密接な接触を避けること。
- ②流行時には、液体石けんと流水で十分に手を洗うことやうがいの励行。
- ③プールを介しての流行に対しては、タオルの共有をしないこと。
水泳前後のシャワーなどの一般的な予防方法の励行が大切です。

